

定員**12名**

和洋文化講座

お寺で薬が
売られていた時代
—寺院売薬から見る
信仰と医療の文化史—

2027年 3月13日(土) 13:30~15:00

会場 大人の学び舎 大黒家（市川市八幡3-26-5）

講座内容

「お寺で薬が売られていた」と聞くと、少し不思議に思われるかもしれません。しかし、病氣平癒を願う人びとにとって、護符を飲むこと、霊水をいただくこと、寺院や門前で薬を求めることは、切り離されたものではありませんでした。本講座では、日蓮宗の飲む護符、上澤寺の薬、覚林坊の目薬、道了尊信仰のなかで先達や祈祷とともに用いられた薬などを手がかりに、信仰と医療が交わる日本の文化史をたどります。薬は単なる商品ではなく、参詣や講、家庭での手当て、霊験をめぐる語りのなかで意味をもっていました。あわせて、いま失われつつある寺院売薬を記録し、未来へ伝える意義について考えます。

講師

越川 次郎（こしかわ じろう）

和洋女子大学 日本文学文化学科 教授

成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期単位取得退学 博士（言語文化学）。

専門は民間医療、信仰と薬の関わり。



▲講座の詳細と
申込はこちらから

受講料

大黒家 会員：1,500円 一般：2,000円

※本講座は「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム※」講座です。
原則、市川市民（市川市在住者・在勤者・在学者）を対象としています。

和洋女子大学 産官学・地域・生涯教育センター

✉ renkei@wayo.ac.jp

